

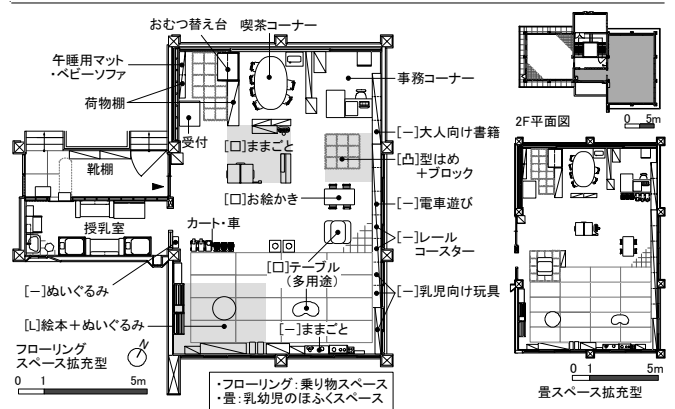
フローリングスペース拡充型コーナー配置と使われ方  
 子育て支援施設におけるコーナー配置の空間実験 その3ー

子育て支援コーナー 親子比較分析 ワンルーム

準会員 ○岡崎 紗矢\*  
 正会員 伊藤 優里\*\*  
 正会員 山本 幸子\*\*\*  
 正会員 中園 真人\*\*\*\*

表1 畳スペース拡充型との変更箇所

変更箇所	畳スペース拡充型	フローリングスペース拡充型
畳スペース	畳マットの枚数・位置 縦:5枚(一部4枚)、横:4枚 南側全面に配置	縦:4枚、横:4枚 1列分少なくとも南側全面に配置
畳スペース	乳児向けコーナー(直線型) 畳スペースを主に乳児用のほふくの場や遊びコーナーとして設定 乳児向け玩具の横に午睡マットとベビーチェアも配置	午睡マットとベビーチェアの利用が少なかったため、荷物置き場に移動 東側隣の棚にも乳児向け玩具を配置
フローリングスペース	ままごとコーナー(島型) 中央に家を配置	喫茶コーナーの前に、家とままごとセットをまとめて配置
フローリングスペース	型はめ・ブロックコーナー(凸型) 事務コーナー前のスペースを型はめ・ブロックコーナーとして設定 フローリングスペースは年齢の高い子ども向けの場所に	場所は同じ フローリングスペースは底冷えがするため、棚の前にマットを敷いて利用を促す
フローリングスペース	カート・乗り物 家の周囲にカートや乗り物で回ることのできるスペースを確保し、乗り物スペースとして想定	カート・乗り物を授乳室の前に配置 ままごとコーナーの前面を乗り物スペースとして想定



1. 序論

前報では、ワンルーム型子育て支援施設におけるコーナー設定の空間実験の第一報として、畳スペース拡充型プランに変更し、実験前との利用者の行動比較を行った。

本報では、空間実験の第二報として、フローリングスペースを拡充したプランに変更し、利用者の行動を分析した上で、実験前及び畳スペース拡充型との比較分析を行う。

2. 調査概要

調査は、山口市にある「子育て交流広場 ちゃ☆ちゃ☆ (以下ちゃ☆ちゃ☆)」にて実施し、前報と同様に空間実験の準備として施設スタッフの協力のもと、施設内の家具及びコーナー配置を変更した。調査は、利用者(親子)及びスタッフを対象とした使われ方調査を実施した。終日10分間隔で平面図に滞在場所・動線・行為内容の記録及びデジタルカメラ・ビデオカメラによる撮影を行った。

調査期間は2014年11月19~22日の4日間である。

3. 畳スペース拡充型との変更箇所

畳スペース拡充型との変更箇所を表1に示す。受付・喫茶・事務コーナーは畳スペース拡充型と同様の配置である。畳マットの枚数について、畳スペース拡充型より畳を1列分少なくし、フローリングスペースを広く確保した(図1)。遊びコーナーは畳スペース拡充型を基本に



凡例)コーナー…□:島型(2),凸:凸型(1) 準コーナー…L:L型(1),-:直線型(6)  
 注)遊び場以外のコーナー、棚等については[ ]を付けずに示している。

図1 コーナー配置図

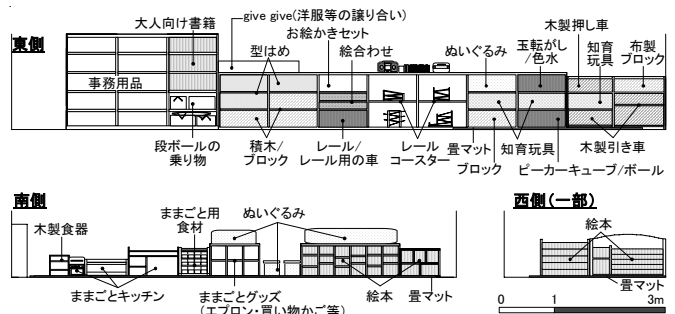


図2 玩具詳細図

配置している。畳スペースについては、午睡マットとベビーチェアの利用が少なかったため、荷物置き場の棚の一角へと移動し、乳幼児向けの玩具を東側の隣の棚にも配置した(図2)。

フローリングスペースでは、家とままごととセットを1ヶ所にまとめてままごとコーナーとし、喫茶コーナーの前に配置した。そして、ままごとコーナーと畳スペースの間を乗り物スペースとして想定し、カートや乗り物を

表2 調査期間中のスタッフ・利用者数

調査日	①利用者			利用者 合計人数	②スタッフ			①② 合計人数
	親子		子ども		午前	午後	終日	
	組数	親		子ども				
11月19日(水)	25	25	27	52	1	1	1	55
11月20日(木)	19	19	19	38	1	1	1	41
11月21日(金)	6	7	8	15		1	1	17
11月22日(土)	9	9	12	21	1	1	1	24
平均	11.3	11.7	13.0	24.7	1	1	1	27.3

注1)11月19日は、10:00~11:00の間に保健師による身体測定と発育相談が実施された。  
また11月21日は、14:00からの開館であった。

表3 利用者の滞在パターン

Type	滞在パターン			調査日				平均
	午前	昼食	午後	11月19日	11月20日	11月21日	11月22日	
1				1:20(9)	1:13(5)			0 0:38(3.5)
2				1:49(8)	1:40(6)	1:26(6)	1:21(5)	1:34(6.25)
3				2:27(6)	3:19(8)		4:31(3)	2:34(4.25)
4				2:22(2)	0		3:55(1)	1:34(0.75)

注1) 図中の時間は、各パターンの平均時間、( )内の数字は利用者の組数を示す。  
注2) 11月19日は、10:00~11:00の間に保健師による身体測定と発育相談が実施された。  
また11月21日は、14:00からの開館であった。

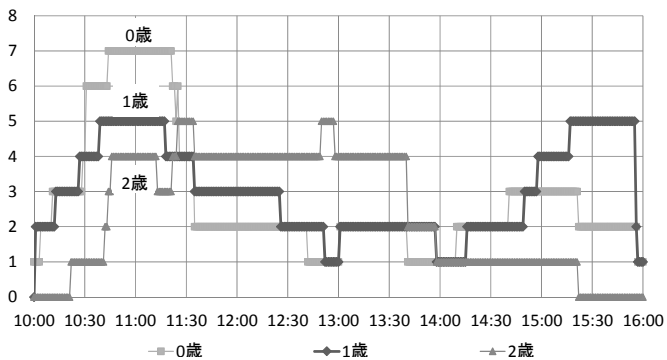


図3 子どもの年齢別人数推移 (11月19日)

授乳室の前へと移動した。また、使われ方調査時にカートにぬいぐるみに乗せて遊ぶ光景も見られたため、その横にぬいぐるみの入った箱を配置した。ブロックコーナーは、畳スペース拡充型と同じ場所に配置してあるが、フローリングスペースは底冷えがするためあまり使われていなかったため、棚の前にマットを敷いて利用を促す。

#### 4. 施設の利用形態

##### 4-1 利用者の滞在パターン

調査期間中のスタッフ及び利用者数を表2に示す。利用組数は、9組から25組とばらつきがみられた。実験前・畳スペース拡充型同様に、兄弟での利用がみられたため、親の人数よりも子どもの人数の方が多い。

次に、施設滞パターンを表3に示す。滞在パターンは、①午前中滞在、②午後滞在、③昼食から午後滞在、④昼食時以外滞在の4つに区分された。施設で昼食をとらないタイプ1・2の利用者が最も多く、平均して1時間程度滞在していた。また、施設で昼食をとるタイプ3も全体の約4割みられた。

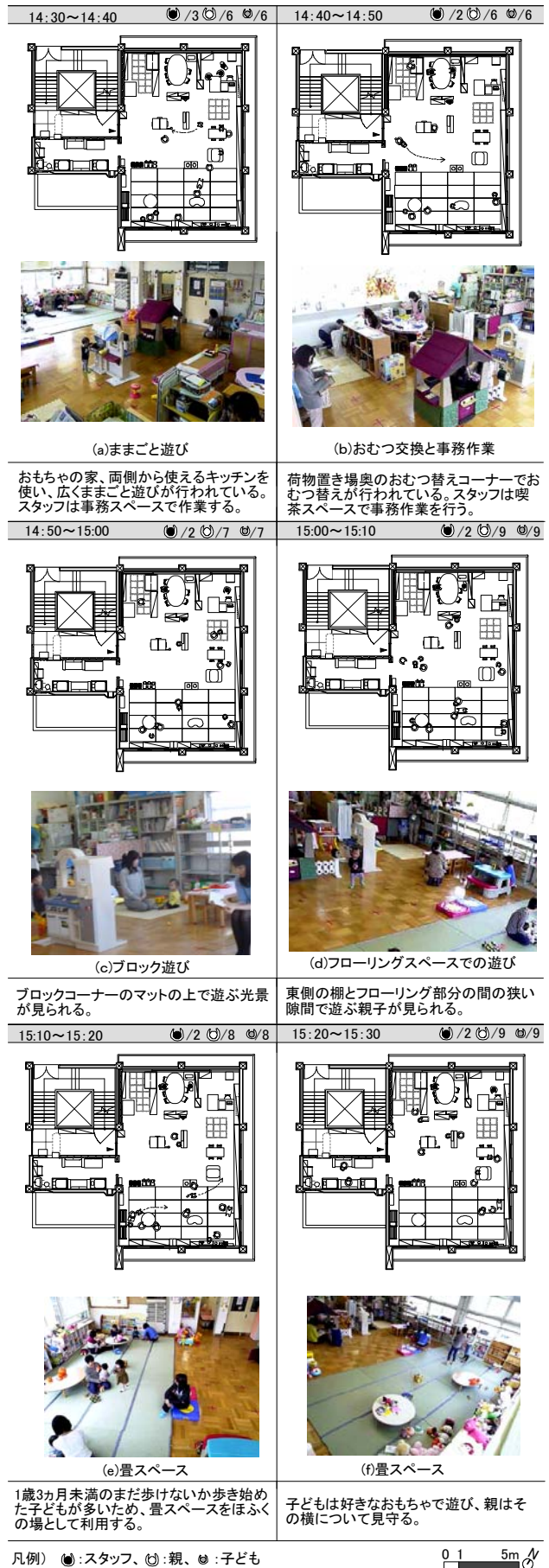


図4 自由遊び

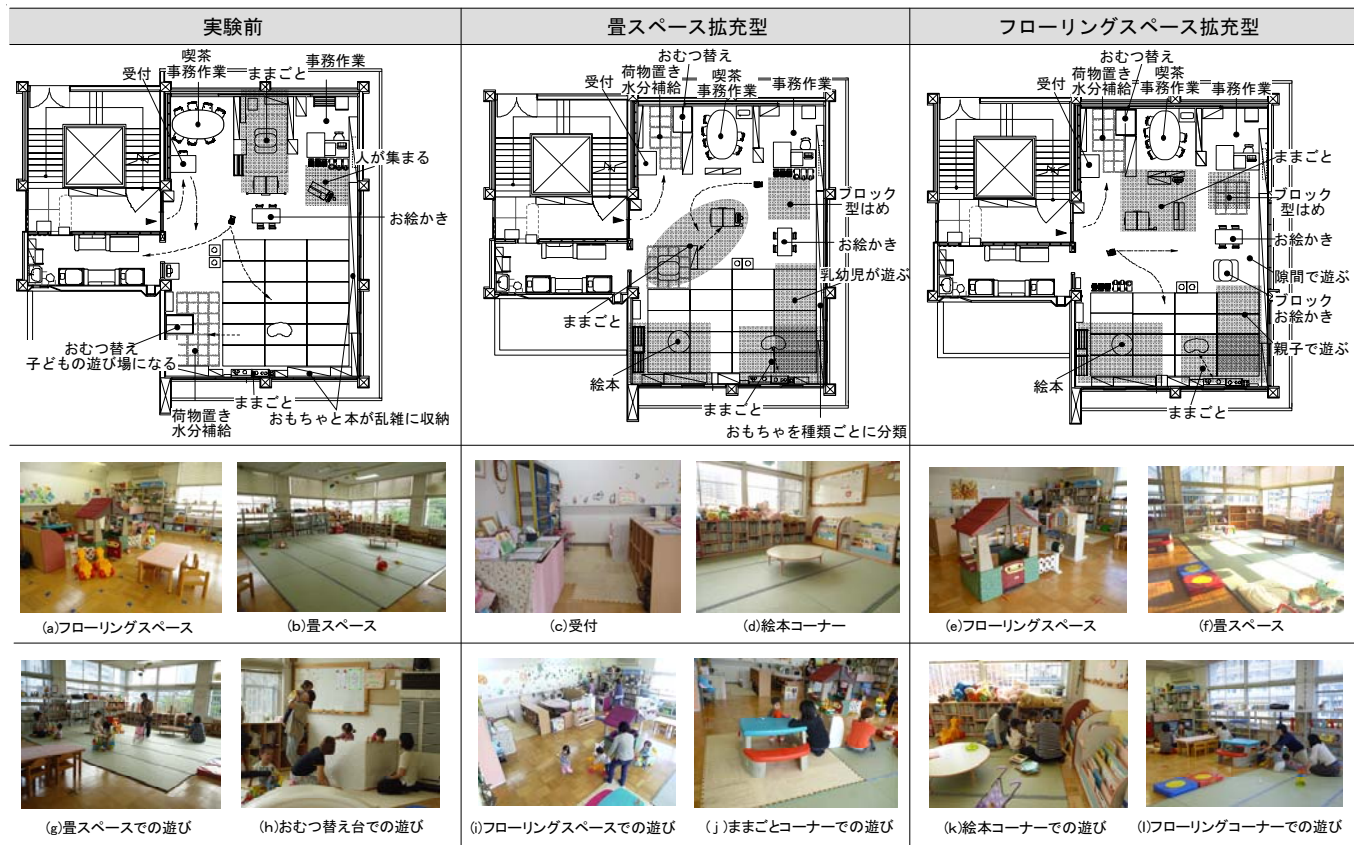


図 5 3 パターンのコーナー配置と使われ方

表 4 3 パターンの使われ方と特徴の比較

	実験前		畳スペース拡充型		フローリングスペース拡充型		
	空間の特徴	使われ方の特徴	空間の特徴	使われ方の特徴	空間の特徴	使われ方の特徴	
畳スペース	畳マットの枚数・位置	縦:6枚、横:3枚 ・東側と南側の玩具棚に接する形で角に配置	縦:5枚(一部4枚)、横:4枚 ・南側全面に配置	フロアリングスペースと明確に区分し、畳スペースをより広く確保	縦:4枚、横:4枚 ・1列分少なくして南側全面に配置	フロアリングスペースをより広く確保	
	乳児向けコーナー(直線型)	フロアリングスペースや畳スペースの棚に、複数の玩具が区分されずに収納 ・明確に配置されていない	・いたるところで遊ばれている ・乳児向け玩具の横に午睡マットとベビーチェアも配置	親と共に遊ぶ ・マットの上で寝る ・午睡マットとベビーチェアの利用が少ない	午睡マットとベビーチェア荷物置き場に移動 ・東側隣の棚に乳児向け玩具を配置	親と共に遊ぶ ・マットの上で寝る	
	絵本コーナー(L型)	玩具と同一の場所に配置	・他の遊びと重複して静かに読むことができない ・ほとんど利用されない	・スタッフが発本を選定し、畳スペースの角にL型のコーナーを設定 ・丸テーブルを常設	・静かに利用できるようになる ・利用率が上がる	畳スペース拡充型と同様	
フローリングスペース	ままごとコーナー(凸型)	・棚に囲まれた北側中央スペースに配置	・利用率は高いが、コーナー入口部分に家があまり見通しが悪い	・授乳室の前にマットを敷き、テーブルとままごとセットによるままごとコーナーを設置	・テーブルと家を利用し広く遊ばれる ・畳スペースでは乳幼児が落ち着いて遊ぶことができる	・喫茶コーナーの前に、家とままごとセットをまとめて配置	・利用率は高いが、スタッフが付の場所に移動する際の動線上にあるため、コーナー内を通る光景もみられる
	型はめ・ブロックコーナー(直線型)	・型はめと積木・ブロックは同一の場所になく、東側と南側の棚に分けて配置	・遊ぶ場所が明確に区分されていない	・事務コーナー前のスペースを、型はめ・ブロックコーナーとして設定 ・フロアリングスペースは年齢の高い子ども向けの場所に設定	・コーナー設定通りに遊ばれている	・場所は畳スペース拡充型と同じ ・フロアリングスペースは底冷えがするため、棚の前にマットを敷いて利用を促す	・畳スペース拡充型の場合よりも利用率が上がる
	カート・乗り物	・カート・乗り物を事務スペース前に配置 ・乗り物スペースは明確に配置されていない	・フロアリングスペースが分断され、十分なカート・乗り物遊びを行うスペースが確保できず、授乳室や畳スペースまで遊びが拡大	・カート・乗り物を事務スペース前に配置 ・フロアリング中央の家の周囲を乗り物スペースとして想定	・専用の乗り物スペースを設けなくても、家の周囲をカートや乗り物で回って遊ぶ光景がみられた	・カート・乗り物を授乳室の前に配置 ・ままごとコーナーと畳スペースとの間を乗り物スペースとして想定	・専用のスペースとしては狭く、ままごとコーナーの間を通る光景もみられた
	家・お絵かきコーナー(鳥型)	・フロアリングスペース中央に並べて設置		・フロアリングスペース中央に家、棚の前にお絵かきコーナーを移動		・お絵かきコーナーの位置は畳スペース拡充型と同様 ・家は、ままごとコーナー(凸型)の一部として利用	・授乳室に近い場所にカートと乗り物を配置したため、授乳室や畳スペースまでも遊びが拡大
	荷物置き場・おむつ交換台	・畳スペースの横に配置	・遊び場の延長として利用される ・受付テーブルから離れているため、荷物を置くまでの移動距離が長い	・受付奥に移動 ・実験前に喫茶コーナーとままごとコーナーの境に設置していた棚を壁際へ移動して荷物棚として利用	・受付後の荷物の収納がスムーズに ・おむつ交換台の遊び場としての利用も減少		
	喫茶コーナー	・プレイルームと並行にテーブルを配置	・座る場所によっては遊ぶ子どもの様子を確認しづらい場合がある	・フロアリングスペース北側の中央部分に移動し、プレイルームと垂直にテーブルを配置 ・子どもの侵入防止のため、コーナー入口に棚を設置	・プレイルーム全体を見渡せる ・棚の両側に仕切りを設置することで、より子どもの侵入を防止することが可能に	畳スペース拡充型と同様	



## 4-2 子どもの年齢別人数推移

本節からは、4日間の調査期間のうち利用者数の多かった11月19日に着目して分析を行う。子どもの年齢別人数推移を図3に示すが、午前中に0歳児が最大7名と最も多く、次いで1歳児、2歳児の順に並ぶ。一方、昼食時になると2歳児が最も多く、0歳児は減少することがわかる。また、1歳児は1日を通して5名前後が滞在し、3歳以上の子どもは見られない。

## 5. 施設の使われ方

施設の使われ方について、受付・昼食・喫茶については畳スペース拡充型と差異がみられないため省く。ここでは、14:30~15:30の自由遊びについて示す(図4)。

### 1) 14:30~14:40(利用者：6組)

フローリングスペースのおもちゃの家、両側から使えるキッチンを使い、広くままごと遊びが行われている。お絵かきコーナーで遊んでいる子がみられる。その間スタッフは事務スペースで作業する。

### 2) 14:40~14:50(利用者：6組)

おもむつ交換台でおむつ替えが行われる。絵本コーナーの丸テーブルでは親同士の交流がみられる。フローリングスペースでは、乗り物に乗った子どもを親が押して遊んでいる。

### 3) 14:50~15:00(利用者：7組)

ブロックコーナーにおいて遊ぶ親子がみられる。親は子供の横につき一緒に遊ぶことが多い。

### 4) 15:00~15:10(利用者：9組)

フローリングスペースの東側において、テーブルを使用せず棚と間の狭い隙間で遊ぶ親子が多くみられた。利用者も増え、フローリングスペースと畳スペース共に親同士の交流が頻繁に見られるようになる。

### 5) 15:10~15:20(利用者：8組)

1歳3カ月未満で、歩き始め前後の発達段階の子どもが多いため、畳スペースでは7組と多く滞在している。絵本コーナーでは、丸テーブルを囲んで絵本の読み聞かせを行う光景もみられる。

### 6) 15:20~15:30(利用者：9組)

フローリングスペースにおいても遊ぶ子どもが増える。親は子供の横で一緒に遊ぶ。授乳室においては、ソファに座り親同士の交流がみられる。

## 6. 3パターンの比較

実験前・畳スペース拡充型・フローリングスペース拡充型のコーナー配置と使われ方の特徴を図5、表4に示し、

比較分析を行う。

### 6-1 コーナー配置の比較

- 1) 実験前には、縦：6枚、横：3枚の計18枚の畳マットが配置されていたが、畳スペース拡充型は縦：5枚(一部4枚)、横：4枚の計19枚に増やした。フローリング拡充型はそれより1列分減らし、縦：4枚、横：4枚の計16枚を南側前面に配置した。
- 2) 畳スペース拡充型とフローリング拡充型では、畳スペースを乳児スペースと位置づけ、南側の隅にはL型の絵本コーナーを配置した。フローリングスペースには、ままごと・ブロック・お絵かきコーナーを配置し、乗り物遊びを行う場も確保した。
- 3) 荷物置き場・おもむつ交換台は受付奥のスペースに移動し、受付後のスムーズな荷物の片づけを促すとともに、遊びスペースと区別した。喫茶コーナーは、北側中央に移動し、プレイルームと垂直にテーブルを配置した。
- 4) 実験前にはプレイルームの北側中央に配置されていたままごとコーナーを、畳スペース拡充型では授乳室の前にマットを敷いてテーブルとままごとセットを、フローリング拡充型では喫茶コーナーの前に、家とままごとセットを1ヶ所にまとめて配置した。

### 6-2 使われ方の比較

- 1) 実験前は、荷物置き場とおむつ交換台が遊びの場の延長として使われることや、受付テーブルから離れているため荷物を置くまでの移動距離が長いことが問題であったが、配置変更後は受付後の荷物の収納がスムーズになり、おもむつ交換台の遊び場としての利用も減少した。
- 2) 絵本コーナーとブロックコーナーは他の遊びと重複してほとんど利用されていなかったが、変更後は絵本コーナーが静かに利用できるようになり、ブロックコーナーも明確に区分されたことによって利用率が上がった。さらに、フローリング拡充型ではブロックコーナーにマットを敷いたことにより、より利用が増加した。一方で、事務コーナーからは様子が確認しづらいため、位置の検討が必要である。
- 3) カートや乗り物遊びは、実験前は十分なスペースが確保できず、授乳室や畳スペースまで遊びが拡大していたため、畳スペース拡充型では、家の周囲をカートや乗り物で回って遊ぶ光景がみられた。また、フローリングスペース拡充型では、畳スペースとの間に専用のスペースを設けたが十分ではなく、授乳室に近い場所にカートと乗り物を配置したため、授乳室や畳スペースまでも遊びが拡大する結果となった。

\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

\*\* 山口大学大学院理工学研究科

DC2・日本学術振興会特別研究員

\*\*\* 筑波大学システム情報系 助教・博士(工学)

\*\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

\*\* DC2., JSPS Research Fellow., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.

\*\*\* Assistant Prof., Faculty of Engineering, Information and Systems., University of Tsukuba., Dr.Eng.

\*\*\*\* Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr.Eng.